

# 金浦・夜久野高原 観光・散策マップ

自然・人・ロマンの歴史が息づく  
魅力にあふれた夜久野ヶ原。  
今、新たな再発見や出会いが  
ありそうな予感がする。

宝山から見る雲海



秋の茶堂



磯部金浦池の冬景色

八十八ヶ所  
石仏めぐり  
エドヒガン桜

夜久野高原に  
春の訪れを告げる  
エドヒガン桜が  
石仏に寄り添い咲く

ソメイヨシノ  
エドヒガン



金刃比羅神社(頂上)前の石仏 3番

## 茶堂(放光院)堂内三仏(左・中・右)

堂内の大師像は慶応元年(1865)に奉納された仏像。観音立像は明治40年(1907)田ノ口の放光庵が廃寺となり移祭される。不動尊は昭和24年(1949)高源寺が廃寺の際に移祭。この像は茶堂祭仏中、最古のものである。



不動尊像



観音立像



本尊 弘法大師

## 境内石造物遺跡(①~③ 北側より右周り方向)

境内に散在する石造物48基と石仏34基。一道真心の功績を讃えた「茶堂水碑」を始めとして、真心の供養塔、応仁の乱で戦死した内藤孫四郎の供養塔や夜久野トンネル工事犠牲者の供養塔、八十八ヶ所石仏巡りの「1・2・70・71番」、宝塔や石灯籠、鐘楼跡、石仏、道標等その種類と数の多さに圧倒されます。まさに、凝縮された歴史の足跡を茶堂(放光院)境内に見ることができ感慨深いものがあります。



道標「なりあまで十里あり」  
1673(寛文13)



茶堂水碑  
1826(文政9)



内藤孫四郎三百廻忌供養塔  
1763(宝暦13)

## 交通のご案内



### 〈お車をご利用の場合〉

- 舞鶴若狭自動車道  
・春日ICから北近畿自動車道を経由し  
・山東ICから国道9号で京都方面へ10分
- 播但連絡有料道路  
・和田山ICから国道312号、9号で京都方面へ20分  
・和田山ICから北近畿自動車道を経由し  
・山東ICから国道9号で京都方面へ10分

### 〈JRをご利用の場合〉

- JR山陰本線「上夜久野駅」下車 徒歩約15分  
・大阪駅より福知山駅で普通に乗換え約2時間30分  
・京都駅より福知山駅で普通に乗換え約2時間  
・姫路駅より播但線と和田山駅、  
さらに山陰本線を普通に乗換え約2時間

〔編集・発行〕  
梁瀬地域自治協議会  
<http://www.yanase4701.hyogo.jp/>  
金浦区自治会  
〒669-5115 兵庫県朝来市山東町金浦446番地



夜久野高原で収穫した季節の農産物「栗」「スイカ」「さつまいも」、「アトウ」をお土産にぜひどうぞ!





⑦八十八ヶ所石仏めぐり



夜久野高原一帯の88の石仏は、四国八十八ヶ所大師霊場を小規模にしたものです。文化13年(1816)に日置村の住人が弘法大師像一体を刻んで寄進したのが始まりとされており、完成までに9ヶ年を要しました。

各霊場にあたる場所には四国霊場と同名の観音像等と弘法大師座像が並べて建てられており、建立年月日・発起人・世話人などについては、第一番に代表して刻まれています。

茶堂(放光院)境内にある第一番目の石仏を出発して山東町の金刀毘羅山や和田山町の内藤塚を通り宝山(田倉山)に登り、夜久野高原や夜久野町を巡りながら8の字を描く全長約6kmのコースとなっています。3時間から4時間程で一周することができます。※イラスト中の白抜き数字は茶堂周辺の石仏の場所(例: 112)

⑧成相道と道しるべ

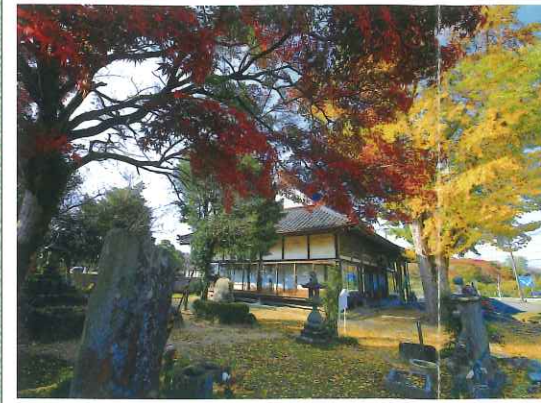
西国三十三ヶ所巡礼の道は、姫路の二十七番書写山門教寺と宮津の二十八番成相寺を結んでいます。朝来市内にも「右なりあい道」と刻まれた立石や地蔵様がたくさん設置されています。(農村広場～茶堂の間には数体設置)磯部郷を通るこの道は、京都から因幡(鳥取)へ向かう「山陰裏街道」であり、城崎温泉に向かう「湯島みち」でもあります。三十三ヶ所の観音霊場巡りは平安時代後期から始まっていますが、巡礼が盛んになったのは江戸時代になってからのようです。※イラスト中の☞と☜



⑨応仁の乱 - 夜久野合戦の古戦場 -

室町幕府の八代将軍、足利義政の応仁元年(1467)に京で勃発、10年以上戦いが続きました。応仁2年には、夜久野ヶ原を戦場として丹波の細川軍と但馬・丹後・因幡を治めていた山名軍の総勢3万人が衝突し、細川軍が敗れます。この時、討ち死にした丹波守護代(細川方)内藤孫四郎の内藤塚(同所に石仏巡りの6・7・8番)や供養塔(孫四郎を討ち取った敵方の中路氏の子孫が供養)が茶堂境内に残されています。

⑩地域交流と信仰の拠点 - 夜久野茶堂(放光院・大師堂)



金浦に建っている夜久野茶堂のいわれは、昔、夜久野ヶ原はオオカミや山犬がおり、飲み水もない難所でした。ここを旅する人々の喉の渇きと飢えを癒やすために、一道真心が湯茶の接待をしようと江戸時代の寛政7年(1795)ころ庵を建てたのが始まりとされています。真心は星占いで水源を宝山の麓に見つけ、わずかな手道具で難工事をやり遂げました。それ以来、水は枯れることがありません。湯茶を接待したのは10年余りで突然に亡くなってしまいました。真心は信州稲荷山の出身で武士でした。剣術に優れており、仇討ちをした後、世の無常を感じて仏門に入りました。真心のこの善行は、茶堂境内の「茶堂水碑」に詳しく書かれています。これは夜久野町大油子東源寺住職の石室禅師によって建立された頌徳碑です。

茶堂の他にも二つの呼び方をしています。大師堂です。江戸時代の慶応元年(1865)に夜久野の今西村の定七という人物が弘法大師座像を奉納したことによるものです。

もう一つは放光院です。明治40年(1907)田ノ口清坂にあった放光庵を大師堂に移して放光院と改めました。そのとき記っていた観音立像も一緒に移しました。昭和24年直見村の高源寺が廃寺の際、本尊であった不動明王を放光院に移すとともに放光院が改築されました。本堂には裏面の三仏(一番古いのが不動明王像)が奉祭仏として祀られています。境内には樹齢300年の夫婦銀杏があります。近年は無住であり放光院護持会が維持管理にあたっています。

⑪宝山と夜久野高原



昭和48年4月、兵庫県の観光百選に認定された夜久野高原は自然と歴史・文化遺産が多く残されており、山東町と和田山町、福知山市夜久野町にまたがっています。旧山東町時代には町の観光十選にも認定されています。南北に約2km、東西は約5kmあります。

夜久野の地名は諸説ありますが、焼け野だった、薬草が多くあったので薬野、夜久氏の一族が住んでいたからだと言われています。夜久野高原の土は、黒土(くるぼく)であり、肥沃な土質は野菜や果樹栽培に適しています。さつまいも・大根・スイカ・ブドウ・蕎麦・栗・ネギ等がよく知られています。

高原のシンボルである宝山(地元では田倉山と呼んでいます)は、今から30万年～40万年前に3回にわたって噴火しました。溶岩が冷え固まって玄武岩となり、小倉の玄武岩公園はよく知られています。宝山の高さは約350m、火口は周囲約450mで美しい円錐形(底面が円をなす錐形、とんがり帽子)をしています。宝山の底部から伏流水(地下の流れ)が流れ出ているといわれています。白井の大森神社から100mほどの所にある崖から湧水(1日あたり200トン)、宮の石部神社境内の池では湧水が見られます。

夜久野高原では、古代のアンモナイトの化石や、縄文・弥生時代の遺跡が発見され、土器や石器等が数多く出土しています。また夜久野城が築かれ、合戦場となり、旅人が行き交い、信仰の拠点であり、開拓に苦勞するなど夜久野ヶ原は古代から様々な歴史の舞台でありました。大正から昭和には、傾斜地は牧草地として、また夜久野スキー場で賑わい、映画のロケも盛んに行われました。

高原を詠んだ土の歌人、藤原東川さんや「銀河鉄道999」の松本零士さんにまつわるエピソードも知られています。また、最近では宝山から見る「雲海」が撮影ブームとなっています。

⑫お大師さん(大師祭り)



伝統行事として、大師祭りは毎年4月21日と9月21日に夜久野茶堂境内で行われています。但馬・丹波の境界にあり、三郷(山東町・和田山町・福知山市夜久野町)の交流の場として、特有の雰囲気と情緒を懐かしく覚えている人も多く、春には弘法大師様の供養、護摩祈祷、餅まきがあり、お茶ふるまい、奉納太鼓など新たな催しも行われています。昔は、子供達は午前中の授業だけで午後はこぞってお大師さんに参っていました。たくさんの屋台や見物小屋が並び大勢の人で大変な賑わいをみせていました。

⑬源氏・平家ホタルの生息地



磯部川の源流となる金浦川は、カワナ等のホタルの生息環境に恵まれ毎年6月には源氏・平家ホタルが飛び交う「乱舞」が見られ、多くの人が訪れます。

